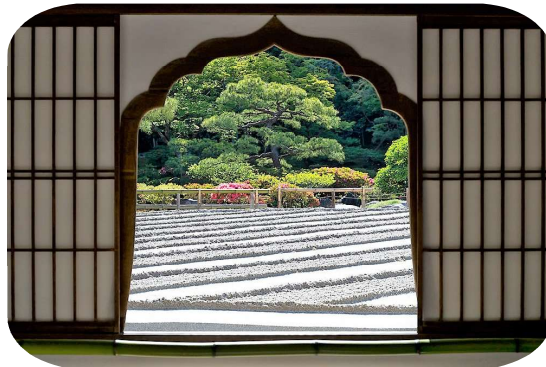


2018

友引町内  
通信

Vol.217

3



寺の灯も なべて春めく 宵なれや

日野草城

お寺で上枠が火炎の形をした「火灯窓」を見かけたことはありませんか。かとうまど鎌倉時代に中国から禅宗が伝来しますと、禅様式の建築も現れます。その窓のデザイン性が好まれ、寺院以外の城や住宅でも広く用いられました。石山寺で紫式部が『源氏物語』を書き起こした部屋にもこの窓があり、「源氏窓」とも呼ばれます。

# いん君

京都での学生時代、講義が終わるとすぐにお寺へ戻らないといけない私はあえて友達をつくりませんでした。学内に一人でいると時々声をかけられます。「ねええ、私と一緒にお店で働かない？」と甘い声で。「ええ！ゲーバー？おかまバー！」。私はすぐさま「そういう**趣味**はありませんので」とお断りしました。「バイトだと割り切ってもらってもいいよ。お化粧の仕方も私が教えてあげる。気づいていないけどあなたにはそのセンスがあるのよ。」…



当時は「ニューハーフ」、「シーメール(国際的名称)」という名称もなく、別世界の人々の「趣味」という感覚でした。また「おかま」は差別用語ですし、現在はそれを職業にしている人(風俗、タレント等)と、医学的(精神科)に研究が進められている、『**性別違和症候群**(以前は「性同一障害」という名称)』という診断名の患者さんとは切り離されています。障害者ではありません。私たちも最低限の知識をもつ必要があるでしょう。

つい先日、偶然テレビのスイッチを押すとNHKの『あさいち』という番組の料理コーナーでした。オリンピック間際で韓国料理のようです。先生はいつも登場する方々より年齢が若くボーイッシュで可愛い素敵な方で、ソウル出身のファンインソン(以後、「いん君」)という韓国料理研究家だそうです。この先生、声と手の大きさから男性のようです。そのギャップが更

に魅力を生み、「男子でこんなにかわいいなんて。私、今日から女やめます。」という番組への投稿が紹介されていました。『**いんくん**』とアップリケしてあるお手製のエプロンを着用され、自ら「妻が作ってくれました。」と堂々と、更に幸せそうな笑みいっぱい発言されたことが心に残りました。「いん君」が既婚者であることでスタジオが更にざわめきました。

最近、「男性が女装する」テレビドラマが多いです。NHKも『**女子的生活**』という4回ものを放映していました。その中の主人公「ミキ」は、①身体の性別は男性で②心の性別は女性で③求める性対象は女性という設定でした。つまり「性別違和症候群」の患者さんは①②③の組み合わせが多種で複雑であるということ、このドラマを見て知るきっかけとなりました。だから、仮に「いん君」が「性別違和症候群」の方だとしても、女性の方と結婚されていることは「普通」のことで、MCの井ノッチが動揺することの方が変です。ドラマを見て学習した私にはすぐに理解できましたし、ドラマ終了後に「いん君」を料理講師に招いたのも、NHKのそういう意図があったのかも知れません。タレントで、「おかま」などと自ら強調して悪ふざけをしている人を見ると悲しくなります。

私の知っている方で、身体もスマホのカバーなど所持品に至るまで完璧に「中性」の人がいます。生まれながらに自ら男女の自己判断ができない「**Xジェンダー**(X-gender)」です。その人の幸せを祈るためにも、これから学習してみます。

俊徳丸